



岡山大学理学部 同窓会会報

Faculty of Science Okayama University Alumni Association



【会則】平成24年3月5日 制定

(名称)
第1条 本会は、岡山大学理学部同窓会（以下、「本会」という。）と称する。

(目的)
第2条 本会は、会員相互の親睦・情報交換、並びに資質の向上を図り、併せて岡山大学理学部及び自然科学研究科の発展を目的とする。

(事業)
第3条 本会は、目的を達成するために次の活動を行う。
一 総会の開催
二 会報の発行
三 会員名簿の管理
四 その他、本会の目的達成に必要な事項

(構成)
第4条 本会は、所在地を岡山市北区津島中三丁目1-1岡山大学理学部に置く。
2 本会は、事務局を設け、事務職員を置くことができる。
3 本会は、必要な学科並びに地域に支部を設置することができる。支部には代表者を置く。

(学科同窓会)
第5条 本会は、学科及びそれに関連する大学院卒業生で別に組織する同窓会（以下「学科同窓会」という。）と連携協力を得て、本会の事業を行う。

(会員)
第6条 本会は、次の項に掲げる会員をもって構成する。
一 正会員
岡山大学理学部及びそれに関連する大学院の卒業生・修了生
二 学生会員
岡山大学理学部及びそれに関連する大学院の在学学生
学生会員は、卒業することにより正会員となる。
三 特別会員
岡山大学理学部及びそれに関連する大学院の教員及び技術職員並びに事務（室）長として在職した、又は在職する者
その他、理事会において入会を認められた者
2 本会の会員は、氏名・住所・電話番号・勤務先・メールアドレスなどの変更が生じたときは、本会事務局に届け出るものとする。

(学科同窓会の会員)
第6条の2 学科同窓会の会員は、本会の正会員に準じて取り扱うこととし、その取扱いは別に定める。

(役員)
第7条 本会に、次の役員をおく。
一 会長 1名
二 副会長 1名
三 理事 若干名
四 監事 2名
第8条 役員の仕事は次のとおり定める。
一 会長は、会務を総括する。
二 副会長は、会長を補佐し、事務局を統括する。
三 理事は、会長に協力し、会務を執行する。
四 理事は、各学科会員を代表し、本会と各学科会員との相互連絡にあたる。
五 理事は、本会の目的達成に必要な任務（総務・会計・広報・名簿管理等）を分担する。
六 監事は、会計及び会務を監査する。

第9条 役員の出選方法は次のとおり定める。
一 会長は、会員の中から推薦するものとし、理事会で選出する。
二 副会長は、岡山大学理学部長をもってあてるとする。
三 理事は、学科毎に学科長を含めて2名程度とし、理事会で選出する。
四 監事は、理事会で選出する。
五 会長、副会長、理事、監事の任期は2年とし、再任を妨げない。

(会議)
第10条 総会は、総会、理事会及び役員会とする。
第11条 総会は、本会の重要事項について審議が必要な場合において、理事会の議を経て、会長がこれを召集する。
第12条 理事会は、会長、副会長、理事及び監事を以て組織し、会長がこれを召集する。
第13条 理事会の議長は会長または副会長があたる。
3 理事会は、年1回以上開催し、次の各号に掲げる事項を審議する。
一 会則及び施行細則の改正に関する事項。
二 会務及び業務報告に関する事項。
三 決算承認及び予算の議決に関する事項。
四 その他、役員会において必要と認められた事項。
4 理事会は役員会の過半数の出席をもって成立し、議事は、出席者の過半数をもって決する。
第13条 役員会は、会長・副会長で構成する。
2 役員会は、本会の会務の企画又は執行の必要に応じて随時開催し、協議の結果は理事会に提案並びに報告をする。

(会計)
第14条 本会の運営に要する経費は、会費・寄付金・その他の収入をもってあてる。
第15条 本会の会費を次のとおり定める。
一 正会員は、入会金（終身会費）5,000円を納付するものとする。ただし、既に学生会員である者の入会金は不要とする。
二 学生会員は、入会金（終身会費）5,000円を入学時に納付するものとする。
三 既に学科同窓会の会員であって本会に入会する者は、その入会金を免除する。
四 会費の納付方法については、別に定める。
第16条 本会の運営に要する経費にあてるため、会員及び学科同窓会等から寄付金を受領することができる。
第17条 会計担当理事は毎年、理事会或いは会報で本会の会計を報告する。
第18条 監事は、毎年本会の会計を監査する。
第19条 会計担当理事は、正会員の要求があれば会計帳簿を随時公開しなければならない。
第20条 本会の会計年度は、毎年4月1日から翌年3月31日までとする。

(雑則)
第21条 この会則に定めるほか、本会に関して必要な事項は、理事会の議を経て別に定めることができる。
2 理事会は、会則等重要な規定の改正を会報により報告するものとする。

(附則)
1 この会則は、平成24年3月5日から施行する。
2 この会則は、平成24年3月卒業生から適用する。
3 会計管理は、事務局が行い代表者は事務局長とする。

岡山大学理学部同窓会役員名簿

平成29年4月1日現在

役員	氏名	所属等
会長	本水昌二	名誉教授
副会長	吉野雄二	理学部長（教授）
理事	河備浩司	数学科長（教授）
理事	池畑秀一	名誉教授
理事	池田直	物理学科長（教授）
理事	味野道信	グローバル人材育成院教授
理事	金田隆	化学科長（教授）
理事	岡本秀毅	化学科准教授
理事	川本平山	全学同窓会理事（化学科）
理事	沈建仁	生物学科長（教授）
理事	西村美保	生物学科助教
理事	野沢徹	地球科学科長（教授）
理事	横谷尚睦	附属界面科学研究施設長
監事	野原実	副学部長（教授）
監事	西原康師	副学部長（教授）

平成28年度 会計報告

収 入		支 出	
摘 要	金 額	摘 要	金 額
1 前年度繰越	1,429,636	1 事業費 (内訳) (1) 同窓会（ホームカミングデイ） 同窓会 120,408 お茶代 2,969 (2) 同窓会報作成経費 124,200 (3) 就職セミナー講演謝金	252,577 123,377 124,200 5,000
2 会費 一般学生 585,000 @5,000 × 117名 卒業生 19,610 3名	604,610	2 事務費 (内訳) (1) 切手	3,854
3 預金利息	140	3 繰越金 預金 1,824,657 現金 7,298	1,831,955
4 同窓会参加費	54,000		
合 計	2,088,386	合 計	2,088,386

■編集後記（岡山大学Alumniニュースをチェックしよう！）

全学同窓会を改組して平成25年に設立された岡山大学Alumni(全学同窓会)は、着実に組織の整備と事業を展開してきた。そして森田潔前学長の任期満了に伴い、今年4月から横野博史学長の就任により同窓会事務局の体制が一新され、小長啓一会長の下で岡山大学Alumniの新たな発展に向けての取り組みが始まっている。同窓会活動の中心は、岡山大学を卒業した後、全国各地で活躍している卒業生の連繋とその維持・強化にある。そのためには支部組織とその活性化が不可欠であるとの認識から、今日まで国内における活動の拠点として東京支部、愛媛県支部、広島支部を設立した。また海外においては国際同窓会の活動拠点として世界各地に50の支部・拠点を設立し、母校との緊密な連携が図られている。今年度の最重要課題として、関東地域に次いで多くの卒業生が在住し活躍している愛知・静岡地域での東海支部（仮称）設立と近畿地域での大阪支部（仮称）設立である。近畿および東海地域に在住の理学部同窓生の皆さんは、積極的に支部活動に参画して、学部・学科を超えて多くの岡山大学同窓生との友好と親睦を深め、そして日常から母校に関心を持ち、母校の発展に寄与されることを願っています。岡山大学Alumniニュースおよび理学部同窓会の情報は岡山大学ホームページのトップページから配信されています。東京支部、愛媛県支部、広島支部、そして新設予定の東海支部、大阪支部に関心のある方は理学部同窓会事務局までメールで連絡して下さい。岡山大学Alumniの各種行事にクラス、ゼミ、サークルの友人を誘い合って参加すれば10万人余の岡山大学同窓生の輪は大きく拡がり、絆はさらに深化するでしょう。皆さんの参加を楽しみにしています。

岡山大学Alumni(全学同窓会)理事 川本平山

お問い合わせ先



岡山大学理学部同窓会事務局
〒700-8530 岡山県岡山市北区津島中三丁目1番1号 岡山大学理学部内
TEL:086-251-7764 FAX:086-251-7777
E-mail:alumni-sci@okayama-u.ac.jp
<http://www.science.okayama-u.ac.jp/alumni-sci/>

卒業生と古巣の大学との接点

同窓会員の皆様、いかがお過ごしでしょうか。理学部同窓会も発足6年目を迎え、各支部開催の全学同窓会などを通して、会員同士の交流も深まっています。現在、全学同窓会東海支部が設立準備中で、近々発足致します。名古屋をはじめ近隣にお住まいの方、是非ご参加いただき、先輩、後輩の方々との語らいを楽しみ、親交を深めていただきたいと思います。同窓会・同期会は、何かのご縁で入学したことから始まり、このご縁を大切にすることは自身の人生を豊かにする一助にもなるかと思えます。無事に社会へ巣立った卒業生には、ますますの活躍と幸せな人生になることを、私も願っています。同様に、研究室の同窓会などを開催し、卒業生と現役学生・教員の交流を楽しみ、卒業生と大学との接点を大切にしている教員を多く見受けまます。このような接点は、お互いに人生の貴重な糧ともなるでしょう。

さて、卒業生の皆さんは、卒論や修論研究を進める上でさまざまな設備・機器のお世話になったことでしょうか。最近では、本学の設備・機器の共用化も進み、学内のみならず学外の方も多く利用されています。卒業生の強みを活かし、これらの設備・機器を古巣との接点のひとつに加え、今の仕事にご活用いただきたいと思います。これを機として接点として古巣の学生、教員との交流を深め、学生時代に思いを馳せ、あるいは原点に立ち返り、活力を取り戻すきっかけになれば、大学からのささやかなお返しになり、同窓会としても喜ばしい限りです。

最後に、理学部同窓会並びに岡山大学Alumniの発展に一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。最後に、理学部同窓会並びに岡山大学Alumniの発展に一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。最後に、理学部同窓会並びに岡山大学Alumniの発展に一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

同窓会に寄せて

岡山大学理学部同窓会は2012年3月に設立され、皆様方のご協力によりその機能も順次充実してまいりました。理学部は、1949年の創設より発展を続け、現在では5学科を擁し、入学定員は140名、第三年次編入生を含めると収容定員600名の学部で成長してきました。附属施設として臨海実験所、界面科学研究施設が設置されています。また、理学部の教員を中心に昨年度発足した異分野基礎科学研究所においては、光合成研究をはじめ超伝導素材、量子宇宙研究など世界をリードする研究が理学部との共同のもとで進行しています。2011年には、理学部の先導的教育プログラムが文部科学省の理数学生育成支援事業に採択され、フロンティアサイエンティスト特別コースが設置され現在に至っています。また、臨海実験所は全国の大学の教育関係共同利用拠点に再認定されています。

世の中のグローバル化の波に乗り各大学でも多くの改革が実施されています。岡山大学では平成28年度から、それまでの90分授業・2学期制から60分授業・4学期制への移行が実施されました。それに応じて理学部でもカリキュラムの再編等が行われ、授業の様子も大きく様変わりしました。しかしながら、理学部が科学の基礎研究と教育の中心であるという自負を持って教員一同励んでいくという姿勢は何時も変わることはありません。今日のこのような理学部の発展は、岡山大学理学部や大学院において研究を積み上げてこられた卒業生の皆様のご努力や実績によるものと感謝いたしております。理学部卒業生の皆様为本同窓会のもとで交流や情報交換によって一層の親睦が深められ、皆様と同窓会が益々発展されることを心よりお祈りいたしますと同時に、今後とも理学部に対して温かいご支援・ご助言を賜りますようお願い申し上げます。

▼活動報告

2017.10.21	理学部同窓会を開催	2014.8.21	理事会開催
2017.7.26	理事会開催	2013.10.19	理学部同窓会を開催
2016.10.22	理学部同窓会を開催	2013.9.4	理事会開催
2016.9.7	理事会開催	2013.3.6	理事会開催
2015.10.17	理学部同窓会を開催	2012.10.20	設立記念総会並びに懇親会開催
2015.9.2	理事会開催	2012.7.4	理事会開催
2014.11.20	理事会開催	2012.5.25	ホームページを公開
2014.10.18	理学部同窓会を開催	2012.3.5	岡山大学理学部同窓会設立



岡山大学理学部同窓会 会長
(昭和43年大学院修士課程修了)

本水 昌二

最後に、理学部同窓会並びに岡山大学Alumniの発展に一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

(写真右は600M NMRの一部。詳しくは本学・設備技術サポート推進室のホーム・ページをご覧ください)



岡山大学理学部長

吉野 雄二





各学科近況報告

数学科 Department of Mathematics



数学科では、昨年11月末日をもって寛知之教授が退職し、筑波大学大学院数理物質科学研究科に転出されました。また長年、当数学教室に多大な貢献を果たしてきた島川和久教授が、この3月末日をもって定年退職されました。

現在は特命教授として引き続き理学部の教育活動に携わっておられます。その後、4月1日付けで藤森祥一准教授、8月1日付けで鳥居猛准教授がそれぞれ教授に昇任され、さらに4月1日付けで異分野基礎科学研究所に物部治徳特任准教授が着任されました。界面の運動を記述する偏微分方程式が主な専門分野です。また来春には幾何学と解析学の新しい准教授が当数学教室に加わる予定です。これによりスタッフの若返りが進み、ますます当数学教室の教育・研究活動が活性化されていく事を期待しています。

また嬉しいニュースも続きました。橋本光靖教授が日本数学会代数学賞、楠岡誠一郎准教授が日本数学会建部賢弘特別賞を受賞されました。当数学教室からは、2014年の吉野雄二教授に引き続いての受賞となり、それほど規模の大きくない当数学教室が数学研究の拠点の一つになりうることを国内外にアピールできました。また他のスタッフ、さらには大学院生も、国内外の研究集会や数学会での口頭発表や論文を通して研究成果を積極的に公表しています。また岡山大学内部でも昨年に引き続き幾つかの大きな研究集会が開催されました。さらには来年の9月24日から27日に、岡山大学で日本数学会の秋季総合分科会が開催されることになっており、一同気を引き締めて準備に臨んでおります。



数学科長 河備浩司

物理学科 Department of Physics



今年度物理学科は、34名の新生と4名の3年次編入生を迎えています。学生の就職状況は今年も良好のようです。この秋には、1名の博士前期課程学生と2名の博士後期課程学生が卒業をします。これからは秋の卒業も少しずつ増えるのかもしれませんが、教員異動ですが、味野先生がグローバル人材育成院に移籍され教授に昇任されました。今年秋から始まる岡山大学のグローバル・ディスカバリー・プログラムを推進しながら、大学院では引き続き物理科学講座を担当されます。また北川先生が転出されたため、来年の春には新しい助教の先生をお迎えする予定です。

昨年度に設置された異分野基礎科学研究所でも活発な活動が始まっています。ここには、物理学科と関連する多くの特任教員が在籍しており、特に特任教授の吉村太彦教授(量子宇宙物理学)、笹尾登教授(極限量子物理学)、秋光純教授(量子電子物理学)といった著名な方々も物理学科の研究に貢献いただいております。

またこの春にドイツより着任されたHarald O.Jeschke教授の研究室では、英語による研究・教育が実施されています。

この様に物理学科の活動はどんどん活性化しています。今後は英語で物理学を学ぶチャンスも増えそうです。



物理学科長 池田 直

地球科学科 Department of Earth Sciences



地球科学科では、今年度は26名の新生と8名の3年次編入生を迎えました。毎年恒例の新生学外研修は、一泊二日の日程で西はりま天文台、なぎピカリアミュージアムなどを訪れました。西はりま天文台では、公開望遠鏡としては世界最大を誇る「なゆた望遠鏡」を見学しました。曇りがちの天候にもかかわらず、いくつかの星団を観察することができました。ピカリアミュージアムでは化石発掘を体験しました。ピカリアとは、殻に太いトゲがある長さ10cmほどの円錐形のまき貝で、現在は絶滅してしまっています。岡山県北部の奈義町周辺は約1600万年前には海辺であったため、ピカリアなどの化石が多数産出しており、新生生の皆さんも眼を輝かせながら「大物」化石の発見に挑戦していました。

今年度初めには井上麻夕里助教が准教授に昇任されました。昨年度まではウーマン・テニユア・トラック(WTT)教員でしたが、その研究成果や教育活動が極めて優れていることから、中間評価段階での受け入れと准教授への昇任が同時に認められました。ご専門は「サンゴ骨格資料を用いた古気候・古海洋研究」であり、大型研究船での調査やさまざまな研究機関との共同研究を通して、今後も精力的に研究を推進されていくことでしょう。

最後になりましたが、地球科学科の教員一同、充実した教育や優れた研究成果を目指して努力して参りますので、今後ともご支援いただけますよう、宜しくお願い致します。



地球科学科長 野沢 徹

川上 恵典
平成17年 生物学卒業

私は2001年に岡山大学理学部生物学科に入学し、学士課程4年生から博士課程の期間、生体超分子構造研究室の辻建仁教授のもとで、植物・藻類の光合成関連蛋白質の構造・機能に関する研究を行ってきました。高校時代は物理・化学が苦手であったため生物を選択しましたが、理学研究を生業とする上で物理・化学の知識・経験は必須であり、自身の能力向上のためにX線結晶構造解析という専門分野を選択しました。研究室に入ってからはずら光合成膜蛋白質である光化学系II複合体の調製方法、結晶化条件・方法、機能解析法の改良を行い、椅子に座ってゆっくりとX線結晶学を学ぶ時間はほとんどありませんでしたが、大型放射光施設Spring-8といった専門施設で実践を経ることで、必要な知識・経験と研究者に必要な「粘り強さ」を身につけることが出来ました。

2010年に学位を取得した後、大阪市立大学・理学研究科で特別研究員を経て、現在大阪市立大学・複合先端研究機構の特任准教授として構造化学を主体とした光合成・人工光合成研究を行なっています。学問・研究を行っていく上で帰納的・演繹的な2つのアプローチがあり、これらの能力は日々の生活と研究活動(研究の状況把握、計画立て、実行、得られたデータの客観的評価・考察の繰り返し)によって養われていきます。私は岡山大学理学部で研究活動の基礎を学び、学位を取得した後も多くの方々からの支援のもとで、学部4年生から取り組んだ研究課題とその関連研究を現在も続けています。

化学科 Department of Chemistry



今年度は、化学科および異分野基礎科学研究所の化学系教員24名(兼任教員を含む)が、学部生、大学院生の研究教育を担当しております。平成28年度は31名の学部生が卒業、27名の修士学生が修了し、3名の博士課程学生が博士の学位を取得しました。化学科の教員、学生は、物理化学、有機化学、無機・分析化学を基盤とした第一線の研究に活発に取り組んでいます。以下に化学科における代表的な最近の研究成果を二つ紹介します。

機能有機化学研究室(西原康師教授、岩崎真之助教授、森裕樹助教)では、金属触媒を利用した効率的な有機分子の合成法の開発とそれら新規物質の機能性材料への応用について研究しています。クロスカップリングを用いた、ベンゼン環が複数縮環したフェナセン型分子やその複素環誘導体の効率的な合成を達成し、有機電界トランジスタや有機薄膜太陽電池への応用を目指しています。

末石芳巳教授の研究グループは、ESRスピントラップ法を用い、食品および食品中の抗酸化物質の抗酸化能を評価(定量化)する新たな方法を提案しました。活性酸素など、様々な活性種を個別に発生させ、活性種の濃度を追跡することにより、ローズマリーや生姜等の抗酸化能を速度論的に定量化し、また、抗酸化物質の反応性を明らかにしています。ESR装置を用いた抗酸化能の評価法が、医療・食品等の様々な分野で注目され、広まりつつあります。

化学科では、国際交流や英語教育にも力を注いでいます。2011年から始まった国立台湾大学理学院と岡山大学理学部の間での国際ワークショップ(集中講義形式の英語による授業)は大きく発展し、タイのチュラロンコン大学理学部、広島大学や岡山大学工学部も加わり、今年度は初めて広島大学で開催されました。また、学術交流協定を通じてフランスやタイの大学から大学院生がインターンシップ学生あるいは特別研究生として研究活動に従事しております。

以上のように化学科では、世界で活躍できる人材の育成を目指し、教育・研究に活発に取り組んでいます。最後に、同窓生の皆様の益々のご活躍を祈念いたします。今度とも化学科に対するご支援の程、宜しくお願い申し上げます。



化学科長 金田 隆

生物学科 Department of Biology

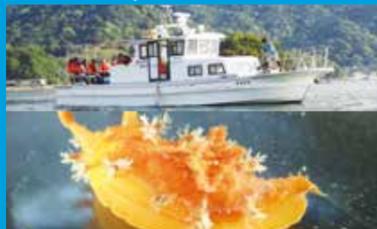


平成28年度末に沓掛和弘教授が退職し、本年度から佐藤伸異分野融合先端研究コア准教授が生物学科を兼担し、異分野基礎科学研究所所属の菅倫寛、秋田総理両助教が准教授に昇任しました。この結果、現在の陣容は、昨年度と変わらない教員総数21名、事務担当非常勤職員1名となりました。このうち、富岡教授は本年度より大学院自然科学研究科長に就任しました。また、本年度の学部新生は30名、3年次編入生は4名です。教員や学生の活躍ぶりは、学科HPや報道等でご存知の通りですが、最近では沈教授が第11回内閣総理大臣表彰「みどりの学術賞」や第50回岡山県「三木記念賞」を受賞し、沈教授、菅准教授、秋田准教授らの論文がNature誌に掲載されました。また、1950年から1988年まで生物学科の教員(講師・助教授・教授)であった故中原清士先生の奥様である中原紀子様からのご寄付により、中原教育研究基金が設立され、平成29年度に4名の若手教員に研究助成金を贈呈することを決定し、年度末には卒業研究が優秀であった学生を数名選考し、表彰して奨学金(中原奨学金)を支給する予定です。平成30年9月には日本生物物理学会年次大会が岡山大学で開催される予定で、市民講演会も予定されており、それらのための準備が始まっています。生物学科の教職員は一丸となって今後も優れた教育・研究成果を輩出するよう努力して参りますので、ご支援の程、何卒宜しくお願い致します。最後に、同窓生の皆様の益々のご活躍とご健康を祈念いたします。



生物学科長 沈 建仁

附属臨海実験所 Marine Laboratory



写真上、中ノ島の磯採集。マリナス3での移動は以前の実習船よりも格段に速く、磯採集がより充実したものになりました。写真下、採集されたエタワミウシ(軟体動物)。ウミウシ類には美しいものが多く、実習生に人気ですが、磯ではよく採らないとなかなか採集できません。

附属臨海実験所が玉野から牛窓(瀬戸内市)に移転して40年近くが経過しました。いまでは牛窓OBが他県高校、大学でも教職員として活躍しており、当臨海実験所を利用して臨海実習を行っています。内容はそれぞれの先生方が学生時代に楽しんだ内容をできるだけたくさん盛り込んで、学生、生徒達にできるだけよい経験をさせようという工夫が凝らされていますが、それらの活動でも磯採集が大きな目玉となっています(先生方が一番楽しそうですが)。実験所周辺の環境も40年のうちに変化してきました。台風も意外な経路をとり、危険な動物などに対する注意点も変わってきています。学内の臨海実習も含め、安全に気を使いながら採集活動

を行っています。研究面では、文部科学省認定共同利用拠点として、ハワイ大学、東京大学等との共同研究が展開されています。臨海実験所所属学生も次第に増え、卒業研究等に励んでいます。



所長 坂本竜哉

附属界面科学研究施設 Laboratory for Surface Science



気体と液体、液体と固体など異なる物質同士が接触する境界面を界面(表面)と呼びます。普段は余り使わない言葉かもしれませんが、石鹸などの洗剤があふらになじみやすい部分と水になじみやすい部分を併せ持つ分子(界面活性剤)を主成分として含むことを考えると、我々の生活にも密接に関連していることが想像できると思います。界面(表面)における原子、分子の配列は物質内部(バルク)とは異なっているため、界面に特有の性質が発現します。そのため、界面(表面)においてバルクとは異なる特性の探索が活発に行われています。附属界面科学研究施設では、人間の生活に役立つ特性を示す物質の開発を目指し、物理系と化学系の教員がそれぞれの専門分野の研究を展開してきました。また、広島大学放射光科学研究センターに設置された岡山大学ビームライン(上図)を活用し教育研究を行ってきました。界面(表面)を利用した新たなデバイス開発や超伝導(ある種の物質の電気抵抗が、その物質に特有な温度(超伝導転移温度)以下でゼロになる現象)を示す新物質開発と超伝導機構の解明は施設において行われている主要な研究課題です。



施設長 横谷尚陸

異分野基礎科学研究所 Research Institute for Interdisciplinary Science



異分野基礎科学研究所は、2016年4月に発足した新しい研究所で、基礎物理学から生物科学という異なる分野の研究者が、異分野間の交流を通して基礎科学の新しい研究分野を切り開くことを目指しています。研究所で行われている主要な研究は、原子物理学を基礎とするニュートリノ物理学研究、光合成を主要な研究対象とする生物科学、超伝導物質や次世代エネルギー、エネルギー貯蔵物質に関する物理学および化学の研究です。研究所には、数学分野の研究者も含まれており、数学-物理学-化学-生物学をつなぐ21世紀の新たな学問分野の創出と、それぞれの研究テーマの深化・発展を目指して集めた取り組みがなされています。研究所は、国際的な視点で研究活動を行うことを重要な指針としており、2017年2月には、フランクフルト大学からHarald O. Jeschke博士が特任教授として着任し、超伝導体や強相関電子物質の理論物理学分野の研究がスタートしました。来年7月には、新たに生物科学分野の外国人特任教授が着任する予定であり、国際色豊かな研究所の創出に向けての研究つづりが着々と進んでいます。異分野基礎科学研究所は、数多くの国際的に活躍する研究者を抱えており、岡山大学の基礎科学研究を理学部とともに領導する立場にあります。世界的な業績を研究所から数多く生み出せるよう所員一同頑張りたいと思いますので、よろしくご支援を賜いますようお願い申し上げます。



所長 久保園芳博